

第2回 大阪市イノベーション促進評議会 会議要旨

1 日 時 平成 25 年 9 月 25 日（水） 午後 5 時から午後 6 時 30 分

2 場 所 大阪イノベーションハブ（WEB 会議）

3 出席者

（委員）

校條委員長、松本委員、藤沢委員、田路委員

（都市計画局）

佐藤局長、藤原理事、吉川理事、山口部長、折原課長

4 議 題

(1) グローバルイノベーション創出支援事業(4月～8月)の実施状況、評価について

5 議事要旨

意見等の概要は以下のとおり。

(1) 評価の手法、手続きについて

- ・評価は例えばある項目がBだった場合、次にどうするか参考にするために評価するものであるから内容が大事であって、Bとなった理由がとても重要となる。Bだから予算が来年は減額という話ではないので、絶対評価そのものについて、これはA++か、あるいはB-か、といった議論に時間を使うものではないと思う。
- ・いかに理由を詳しく書くか。CならCで、今年はこれができなかったが来年こうしたいということや、この目標は良くなかったのでこちらを目標にしたい、というように理由をきっちりと書いたうえで、半期ごとや1年ごとの時間の流れの中でどう努力してきたか、ということの評価することが大事。
- ・自分たちで努力目標をつくり、実行できているかをチェックし、それを客観的に評価してもらって、またさらに、というサイクルが良い。

(2) プロジェクト創出につなげる仕組みについて

- ・プロジェクトの候補としてどんな分野でどんなものがあるのか、ビジネスモデルがどういう段階に練り上げられているのか、あるいはまだまだ荒っぽい段階なのか、さらにそこに何が足りないのかなど、イノベーション、ビジネスを創出するためのプロセスをきっちりと見えるようにすることをやらないといけない。

- ビジネスモデルの質をきっちりと評価できる人がここにいるという前提があり、あるいはそれが不足であれば、ビジネスモデルを練り上げる人がここにアドバイザーとして来ないと、プレイヤーは集まってこないと思う。そういう仕掛けが必要。
- 大阪イノベーションハブを起点にして商談が何回ありましたとか、この集まりをもとにどこかへ調査に行くことになりましたなど、具体的に案件の内容を書く必要はないが、データを取得して、数値化するのはいかがか。
- 非常にアーリーのどうなるかわからないアイデアがいくつあって、それが結構おもしろいアイデアになったのがいくつあって、というように段々絞り込まれていく。それをひとつひとつの段階に来ているのか、次どう進んでいくのか、止まっていればどうやって仕掛けたら前へ進むのかということ、全てのプロジェクトの推進をハブはやらなければいけない。大変な作業であるが、それができるところに人が集まると思う。そうするとファンも集まって来る。仕掛け人も集まってくる。
- それがハブという抽象的な概念ではなく、スーパープロデューサーやプロデューサーがハブにいるということであり、そこに大阪ハッカーズクラブのいろんなハッカーがいるというつながりになる。

(3) 大阪ハッカーズクラブ会員メンバーへのインセンティブについて

- これから大阪イノベーションハブが自立するためにパートナーから会費を取るのなかなか難しいと思う。イベントを実施するときハブは場所を提供するので、私はそれだけで十分と考えており、あとの運営の費用、材料費や懇親会の費用などはパートナーが出せばよいと思う。
- パートナーもメーカー、金融機関、大学とそれぞれ動機が異なるので仕分けをきっちりするべきだ。現状の整理ではわかりにくい。例えば、大手企業がニーズを持ち込んで、ここでおもしろいアイデアや若手のベンチャーと一緒に新規事業を立ち上げることがうまく見えるようになると、パートナーももっと集まってくると思う。
- 事業化についてのイメージをしっかり持てば何が必要になるかが分かる、これはマーケティングと同じで、そうすると、将来サービスの対価として料金をとることも考えられる。
- 現在、ハブにスーパープロデューサーを置いているので、その方かあるいはハブのスタッフがもう必死で探してこなくてはいけない。まだ始まったばかりだからこれからだがそれがハブの役割だ。
- スーパープロデューサーがぶらぶらという場所になるということは大切かもしれない。スーパープロデューサー優先席や、スーパープロデューサーがハブに

来ると外のモニターに今日はこの方がいますと表示されるなど、そういうしかけが必要ではないか。

- ハブの立地は素晴らしく良いのだからそれを最大に利用することを考えてはいかがか。私がいつも思うのは、自分が書いた論文などを持ち歩くのが面倒で、デジタル媒体にもしているが、人と名刺交換するときにパッと渡したくて、その時に紙があればいいのと思うことがよくある。
- 例えば、今から新幹線に乗って東京へ移動しなければいけないときなどに、ちょっとハブで40分でも1時間でも座って仕事しようか、誰かいるかもしれないし、スタッフとも話をしたい、などそういった感じでふらっと行ける状況がすごく大事だと思う。それをうまくやっているのが丸の内の日本創生ビレッジで、そこはメンバーが本を出せば置いてくれる。すごく便利で私は自分の本を置いており、何のあてもなく行った際に偶然会った人と名刺交換した時、あそこにあるのが私の本です、と言えるので非常に便利。
- アドバイザーへの報酬についてだが、絶対に謝金は渡さないほうが良い。1万円もらってもいちいち申告するのが面倒。まったく無料というのも責任が無くなるかもしれないので、少しアドバイスをしてというのであればコーヒーの券千円でも2千円でも良いと思う。気持ちで良い。
- シリコンバレーでインキュベーションをしているプラグ&プレイテックセンターでは、アドバイザーとの仲介だけをしており、本当にお金がかかるようなサポートをする場合は個別に交渉してくれという仕組みになっている。おそらくハブで出来るのは、参考までに共通の契約書を提供したり、費用の相場はだいたい今このぐらいになっているというような情報を提供すると、ここに来る方は便利かもしれない。
- ある県のベンチャーインキュベーションの相談に受けていた際に、メンターやアドバイザーになってくれそうな人にヒアリングしたことがあるが、彼らに聞いてみると交通費さえ出してくれればいいと。ベンチャーと会うこと自体が自分たちにとってもプラスになるし、将来投資対象になるかもしれないので、交通費だけ出してくれるのならどこにでもいつでも行きます、ということは言われている。
- 今の議論の前提には、地域にすぐ来れる範囲だけではこういうスーパープロデューサーのような人は集まらない、やはり範囲を広く考えなければいけないという前提がある。

6 会議資料

- (1) 資料1 平成25年度目標について
- (2) 資料2 平成25年度事業(4月～8月)にかかる目標設定とアウトカム(成果)について

9月～3月スケジュール(予定)

- (3) 資料3 情報発信
- (4) 資料4 大阪イノベーションハブ イベント参加者数
- (5) 資料5 **Osaka Hackers Club**
- (6) 資料6 ものアプリハッカソン、リールローンチパッド